

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	幼児理解				
担当者氏名	飯島 仁美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 専門基礎-2 豊かな人間性の醸成 ○ 専門基礎-3 コミュニケーション能力の向上 ○ 専門基礎-4 発達の深い理解			

《授業の概要》

大人がどう理解するかによって、子どもたちは様々な姿を見せてくれます。その中で、子どもを「深く」理解して関わる保育・教育とは、どのようなものか。具体的な事例と、みなさん自身の体験を通して考えます。大切なのは、自分の子ども観を知り、それをよりよい理解へと変化させていくことです。自分の「子ども」体験をじっくりふり返り、別の子ども理解に触れることで、新たな子どもの姿を発見する時間にしてください。

《授業の到達目標》

- 1) 自分の子ども観を知り、言葉で伝えることができる。
- 2) 一人ひとりの子どもを理解し、新たな子どもの可能性を発見する視点を身につける。
- 3) 子どもの多様性を理解し、子ども理解を醸成させていくことができる。

《成績評価の方法》

- 1) 授業態度・出席 10%
- 2) 事例発表および事例レポート 30%
- 3) 期末テスト 60%

《テキスト》

・森上史朗・浜口順子編『幼児理解と保育援助』ミネルヴァ書房、2003年。

《参考図書》

・矢野智司『幼児理解の現象学—メディアが開く子どもの生命世界』萌文書林、2014年。

《授業時間外学習》

- ・授業プリントの復習、事例ノートのふり返り
- ・小レポートの作成、事例発表の準備
- ・自分の幼少期の経験や、大人になってからの子どもとの関わりについて、よく思い出しておくこと。

《備考（教員経験の有無）》

公立の保育士経験歴10年 介護福祉士教員歴5年 児童館館長歴10年 保育者養成教員歴6年（短期大学・専門学校）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	幼児理解とは？	(オリエンテーション) ・自分の子ども観を知る（自己覚知）
2	子どもを見る目を育てること	・子どもの発達と多様性を理解する
3	子どもの発達理解	・子どもの発達を理解し年齢に応じた表現から子どもの世界観を知る
4	子どもにとっての「おとな」	・子どもからみて「おとな」とは、どのような存在か
5	子どもの発達	・自分の幼少期の体験をふまえて、現在の子どもの発達を理解する 【小レポート提出】
6	子どものあるがままを認める	・「共感的理解」とは？
7	子どもの成長を支える	・子どもと大人の「違いを引き受ける」保育・教育とは？
8	子どもの育ちと子育て	・子どもが育つ環境について、家庭を含めて総合的に理解する
9	子ども集団の理解	・子ども集団（子どもたち）の成長を理解する
10	子どもと大人相互のケア	・人間のライフサイクル全体から、子どもと大人相互のケアについて考える
11	「子どものため」とはどのようなことか？	(中間まとめ) これまで学んだ子ども理解の視点をふり返り、「子どものため」の保育・教育とはどのようなことを考える
12	子ども理解の実践①	(事例の発表・検討) 子どもと関わった経験について発表し、議論する 【事例レポート提出】
13	子ども理解の実践②	(事例の発表・検討) 子どもと関わった経験について発表し、議論する 【事例レポート提出】
14	子ども理解を深めること	(事例の記述) 子どもと関わった経験について文章で記述し、子ども理解を深める
15	子ども理解の変化をふり返る	(フィードバック) (全体のまとめ) 保育・教育実践に向けて、よりよい子ども理解とは何か